

令和8年度 「現代の国語」 年間学習指導計画

教科	国語	学年・コース	第1学年	単位数	2
		教科書	精選現代の国語（東京書籍）		
科目	現代の国語	副教材	パスワード級別漢字（浜島書店）		
教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を養う。				
科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的思考力や表現力を伸ばし、言葉を通じて他者や社会に関わろうとする態度を養う。				

1 評価観点・学習目標

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分に身に付けている。	【話】話し合いを通し、考えを深めながら、工夫して話し合うことが十分にできる。 【書】他者に伝わることを意識して考えを表現することが十分にできる。 【読】叙述を元に要点を的確に捉えられる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度が十分に養われている。
B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	【話】話し合いを通し、考えを深めながら、工夫して話し合うことができる。 【書】他者に伝わることを意識して考えを表現できる。 【読】叙述を元に要点を的確に捉えられる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度が養われている。
C	実社会に必要な国語の知識や技能が不十分である。	【話】話し合いを通し、考えを深めながら、工夫して話し合うことが不十分である。 【書】他者に伝わることを意識して考えを表現することが不十分である。 【読】叙述を元に要点を的確に捉えることが不十分である。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度が不十分である。

2 学習計画

学期	月	学習内容	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4	○ 他己紹介 ・ 相手のことをわかりやすく紹介する ・ 分かりやすい説明をする ・ 手順を整理して正確に伝える	・ 「分かりやすい説明」のポイントを意識した上で説明する内容を考える。 ・ 伝えるべき手順を考えた上で、適切な言葉を用いて自分の意見を正確に伝える。	【話すこと・聞くこと】	5
	5				
	6				
前期	7	○ 評論の読み方を学ぶ ・ まだ知らない自分に出会う ・ 届く言葉	・ 評論の読み方を学び、現代の問題に関心を持って向き合う姿勢を養う。	【読むこと】	10
	8				
	9				
後期	10	○ 論証してレポートを書く ・ 無駄と進化 ・ 人工知能はなぜ椅子に座れないのか	・ 本文の論旨を的確に読むことができるように、文章上の論理に着目して読む。 ・ 本文の論証の仕方を模倣して、自分が疑問に思ふ事柄について論証しレポートを書く。	【書くこと】	20
	11				
	12				
後期	1	○ 異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く ・ 真の自立とは ・ 自立と市場 ・ 共鳴し引き出される力	・ 「自立」「能力」について考察する評論を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。 ・ 読み比べて考えを明確にし、伝わりやすい構成で書く。	【書くこと】	20
	2				
	3				
後期	1	○ 比較しながら説明する。 ・ 今ここにある無数の未知 ・ 不思議な拍手 ・ 水の東西	・ 本文の論旨を的確に読むことができるように、文章上の論理に着目して読む。 ・ 文章上の構成を学び、関連することを比較しながら意見をまとめて説明する。	【話すこと・聞くこと】	15
	2				
	3				

令和8年度 「言語文化」 年間学習指導計画

教科	国語	学年・コース	第1学年	単位数	2
		教科書	精選言語文化（東京書籍）		
科目	言語文化	副教材	完全マスター古典文法（第一学習社） 重要古文単語315（桐原書店） 漢文必携（桐原書店）		
教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を養う。				
科目の目標	我が国の言語文化に対する理解を深め、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で自分の思いや考えを広げ、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。				

1 評価観点・学習目標

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度が十分に養われている。
B	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度が養われている。
C	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることが不十分である。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることが不十分である。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度が不十分である。

2 学習計画

学期	月	学習内容	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4 5 6 7	○ 自分の思いを短歌で表現する ・ 言葉を届ける	・ それぞれの随筆のテーマに対する筆者の見解に注意して、随筆を読む。 ・ 随筆で紹介される短歌を模倣して、自分の思いを短歌で表現する。	【書くこと】	10
	8 9	○ 古典特有の表現を理解する。 ・ 児のそら寝 ・ 用光と白波	・ 歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。 ・ 文語の品詞について理解する。 ・ 文語の活用について理解する。	【読むこと】	25
後期	10 11 12	○ 物語を読み、登場人物の心情を読み解く ・ 羅生門 ・ 富嶽百景	・ 登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題について考える。	【読むこと】	15
	1 2 3	○ 漢文特有の表現を理解する。 ・ 訓読の基本 ・ 故事成語	・ 漢文の特色を知り、訓読の方法を理解し、漢文に親しむ。	【読むこと】	20

令和8年度 「地理総合」 年間学習指導計画

教科	地理歴史	学年・コース	第1学年	単位数	2
		教科書	高等学校 新地理総合 (帝国書院)		
科目	地理総合	副教材	高等学校 新地理総合ノート (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)		
教科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動をとおして、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
科目の目標	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システム (GIS) などを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して多面的・多角的に考察し、課題解決を構想、説明、議論する力を養う。				

1 評価観点・学習目標

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
B	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを概ね理解している。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して考察している。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を追究しようとしている。
C	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しようとしている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察しようとしている。	地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を追究しようとしている。

2 学習計画

学期	月	学習内容	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・単元テスト</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・資料収集、資料読解</li> <li>・グループワーク</li> </ul>		35
	5	地図と地理情報システム			
	6	結び付きを深める現代世界			
	7	生活文化の多様性と国際理解			
	8	地形、気候、言語、宗教			
8	地球的課題と国際協力			35	
9	地球環境問題、資源エネルギー問題、人口問題、都市問題				
10	自然環境と防災				
11	地震、津波、火山の災害				
12	自然災害への備えと復興				
後期	1	生活圏の調査と地域の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・単元テスト</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・資料収集、資料読解</li> <li>・グループワーク</li> </ul>		35
	2				
	3				

令和8年度 「歴史総合」 年間学習指導計画

教科	地理歴史	学年・コース	第1学年	単位数	2
		教科書	明解 歴史総合 (帝国書院)		
科目	歴史総合	副教材	明解 歴史総合ノート (帝国書院)		
教科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動をとおして、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
科目の目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察し、解決を視野に入れて構想する力及びそれらを効果的に説明・議論する力を養う。				

1 評価観点・学習目標

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察している。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究し、解決しようとしている。
B	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を概ね理解している。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して考察している。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を追究しようとしている。
C	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しようとしている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して考察しようとしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、課題を追究しようとしている。

2 学習計画

学期	月	学習内容	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・単元テスト</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・資料収集、資料読解</li> <li>・グループワーク</li> </ul>		35
	5	歴史の扉			
	6	近代化と私たち			
	7	「近代化」への問い			
	8	日本と結びつくアジア			
後期	9	欧米で生まれる国民国家 産業革命による欧米とアジアの変化 日本における近代国家の形成 帝国主義の影響と日本を含めた東アジアの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・単元テスト</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・資料収集、資料読解</li> <li>・グループワーク</li> </ul>		35
	10	国際秩序の変化や大衆化と私たち			
	11	「国際秩序の変化や大衆化」への問い			
	12	第一次世界大戦とその影響			
	1	大衆社会の形成と社会運動			
	2	揺らぐ国際秩序			
	3	第二次世界大戦とその影響			
		グローバル化と私たち			
		「グローバル化」への問い			
		冷戦で揺れる世界と日本 多様化する世界 グローバル化のなかの世界と日本 「歴史総合」を振り返り			

令和8年度 「数学 I」 年間学習指導計画

教科	数学	学年・コース	第1学年	単位数	3
		教科書	改訂版 新編 数学 I (数研出版)		
科目	数学 I	副教材	改訂版 パラレルノート数学 I + A (数研出版)		
教科の目標	数学における基本的な概念や原理・法則を理解し、事柄に対して筋道を立てて考えることができる。 また、課題や各種テストをとおして、基礎・基本が定着している。				
科目の目標	各単元の内容についての基本的な概念や原理・法則を理解し、数学的に解釈したり、表現・処理したりすることができる。 数や式を多面的に見たり、目的に応じて適切に変形したりすることができる。 粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断したり、問題解決の過程を振り返って評価や改善をしたりしようとしている。				

1 評価観点・学習目標

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	各単元の内容についての基本的な概念や原理・法則を理解し、数学的に解釈したり、表現・処理したりすることが十分にできている。	数や式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることが十分にできている。	粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って評価や改善することが十分にできている。
B	各単元の内容についての基本的な概念や原理・法則を理解し、数学的に解釈したり、表現・処理したりすることが概ねできている。	数や式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることが概ねできている。	粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って評価や改善することが概ねできている。
C	各単元の内容についての基本的な概念や原理・法則を理解し、数学的に解釈したり、表現・処理したりすることが十分でない。	数や式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることが十分でない。	粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って評価や改善することが十分でない。

2 学習計画

学期	月	学習内容	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4	第1章 数と式	<b>【学習活動】</b> ・演習 ・グループワーク ・問題集 ・振り返り 等		53
	5	第1節 式の計算			
	6	第2節 実数			
	7	第3節 1次不等式			
	8				
	9	第2章 集合と命題			
		第3章 2次関数			
		第1節 2次関数とグラフ			
		第2節 2次方程式と2次不等式			
後期	10	第4章 図形と計量	<b>【学習活動】</b> ・演習 ・グループワーク ・問題集 ・振り返り 等		52
	11	第1節 三角比			
	12	第2節 正弦定理・余弦定理			
	1				
	2	第5章 データの分析			
	3				

令和8年度 「数学A」 年間学習指導計画

教科	数学	学年・コース	第1学年	単位数	2
		教科書	改訂版 最新 数学A (数研出版)		
科目	数学A	副教材	パラレルノート 数学I+A (数研出版)		
教科の目標	数学における基本的な概念や原理・法則を理解し、事柄に対して筋道を立てて考えることができる。 また、課題や各種テストをとおして、基礎・基本が定着している。				
科目の目標	単元における基礎的な概念や原理・法則を理解し、事象を数学化したり、数学的な処理をしたりすることができる。 事象の構造や性質に着目し、数学的に考察することができる。 課題解決に数学的な見方・考え方を活用しようとしている。				

1 評価観点・学習目標

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	各単元の基礎的な概念や原理・法則を既習の知識と関連付けて理解し、事象を数学化したり数学的な処理をしたりすることができる。	事象の構成要素やその関係に着目し、論理的・統一的・発展的・多面的に考察したり説明したりすることができる。	粘り強く考え数学的論拠に基づいて考えようとしたり、問題解決の過程を振り返って評価や改善したりしようとしている。
B	各単元の基礎的な概念や原理・法則を理解し、事象を数学化したり数学的な処理をしたりすることができる。	事象の構成要素やその関係に着目し、考察したり説明したりすることができる。	粘り強く考え数学的論拠に基づいた判断や、問題解決の過程を振り返って評価や改善をしようとしている。
C	各単元の基礎的な概念や原理・法則を理解することができる。	事象について考察したり説明したりすることができる。	問題解決の過程の振り返りをしようとしている。

2 学習計画

学期	月	学習内容	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4	第1章 場合の数と確率	・各種テスト ・演習 ・ワークシート ・グループワーク ・振り返り		35
	5	第1節 場合の数			
	6	第2節 確率			
	7				
	8	第2章 図形の性質			
後期	9	第1節 平面図形	・各種テスト ・演習 ・ワークシート ・グループワーク ・振り返り		35
	10	第2節 円の性質			
	11	第3節 作図			
	12	第4節 空間図形			
	1				
2	第3章 数学と人間の活動				
	3				

令和8年度 「化学基礎」 年間学習指導計画

教科	理科	学年・コース	第1学年	単位数	2
		教科書	高等学校 改訂 新化学基礎 (第一学習社)		
科目	化学基礎	副教材	改訂 ネオパルノート 化学基礎 (第一学習社)		
教科の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどをおし、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				

1 評価観点・学習目標

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を十分に身に付けている。実験に関する技能を十分に習得している。実験データを収集し、分析・考察など化学的に探究することが十分にできる。	化学的な事物・現象を、物質に関する原理・法則を基に論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが十分にできる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度、実験において主体的に観察・分析しようとする態度が十分に養われている。
B	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を身に付けている。実験に関する基本的な技能を習得している。実験データを収集し、分析・考察など化学的に探究することができる。	化学的な事物・現象を、物質に関する原理・法則を基に論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することができる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度、実験において主体的に観察・分析しようとする態度が養われている。
C	物質に関する原理・法則の理解や、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方が不十分である。実験に関する基本的な技能の習得が不十分である。実験データの収集に留まり、化学的な探究が不十分である。	化学的な事物・現象を、物質に関する原理・法則を基に論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが不十分である。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度、実験において主体的に観察・分析しようとする態度が不十分である。

2 学習計画

学期	月	学習内容	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4	・ 化学と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学と人間生活が密接に関わっていることを理解する。</li> <li>物質の種類とその構成要素について理解する。</li> <li>化学結合の種類や性質を理解する。</li> <li>プリントや小テストで基礎知識の定着を図る。</li> <li>物質量と化学反応式の関係性を理解し、化学反応式を書けるようになる。</li> </ul>		35
	5	・ 物質とその構成要素			
	6				
	7				
	8				
9	・ 化学結合				
後期	9	・ 物質量と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸・塩基の定義を理解し、pHとの関係性を説明できる。</li> <li>中和滴定を中心に学習を行う。実験の操作方法や計算についても理解を深める。</li> <li>酸化還元反応について理解する。</li> </ul>		35
	10	・ 酸・塩基とその反応			
	11				
	12				
	1				
2	・ 酸化還元反応				
3					

令和8年度 「体育」 年間学習指導計画

教科	保健体育	学年・コース	第1学年	単位数	3
		教科書	なし		
科目	体育	副教材	なし		
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程をとおして、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。				
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程をとおして、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。				

1 評価観点・学習目標

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	その種目の運動技能が十分に身に付いている。振り返りシートにおいて習得した知識を的確に技能の習得と関連させて知識を深めた記載があり活用できる。	課題解決に向けて、合理的な動きと比較したり、分析し、成果や良い点、修正点などを十分に指摘したりしている。振り返りシートにおいては課題解決に向けて工夫した内容が十分に記載されている。	自分から公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全について意識した活動を行う姿が見られ、振り返りシートにも十分に記載されている。
B	その種目の運動技能が身に付いている。振り返りシートにおいて習得した知識を的確に技能に関連させた記載がある。	課題解決に向けて成果や良い点、修正点などを指摘している。振り返りシートにおいては課題解決に向けて工夫した点が記載されている。	公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全について意識した活動を行う姿が見られ、振り返りシートに記載されている。
C	その種目の運動技能が不十分である。振り返りシートにおいて習得した知識を的確に技能に関連させた記載が不十分である。	課題解決に向けた指摘が不十分である。振り返りシートにおいては課題解決に向けた工夫の記載が不十分である。	公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全について意識した活動、振り返りシートの記載が不十分である。

2 学習計画

学期	月	単元名	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4	・ガイダンス	・授業を受けるに当たってシラバスをもとに確認		53
	5	・体づくり運動	・リラクゼーション、ストレッチング、集団行動、基礎トレーニング、体力テスト実施		
	6				
	7	・バスケットボール	・パス、ドリブル、シュートなどの基礎技術、ドリル練習、攻守、スキルテスト、簡易ゲーム（ハーフコート）、ゲーム（オールコート）ルールと審判法		
	8				
9					
		・陸上競技	・短距離、走り高跳び、砲丸投げ		
		・体育大会に向けて	・練習計画作成、課題分析		
後期	10	・フットサル	・リフティング、ボールコントロール、パス、キック、ドリブル、ヘディング、シュートなどの基礎技術、ドリル練習、攻守、スキルテスト、ゲーム、ルールと審判法		52
	11	・カーリング	・ショット、スウィーピング、攻守、ゲーム、ルールと審判法		
	12				
	1	・器械運動	・回転系、巧技系の基本的な技の習得、条件を変えた技や発展技の習得、用具の安全な使用方法について		
	2				
	3				
		・バレーボール	・パス、レシーブ、トスなどの基礎技術、ゲーム、ルールと審判法		
	・スキー	・ブルーク、シュテム、パラレルターン大回り、小回りの練習、総合滑走			
	・体育理論	・I単元 スポーツの発祥と発展			

令和8年度 「保健」 年間学習指導計画

教科	保健体育	学年・コース	第1学年	単位数	1
		教科書	現代高等保健体育（大修館書店）		
科目	保健	副教材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）		
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程をとおして、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。				
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程をとおして、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。				

1 評価観点・学習目標

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ知識と技能を基礎から応用まで身に付けている。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けており、自己の考えを表現することができている。	個人生活や社会生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に活動に参加しており、課題解決に向けた一連の活動を振り返り、改善しようとしている。
B	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ知識と技能を身に付けている。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して思考を深め、自己の考えを概ね表現できている。	個人生活や社会生活における健康・安全について関心を持ち、課題解決に向けた一連の活動を振り返り、改善しようとしている。
C	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ知識と技能が不十分である。	個人生活や社会生活における健康・安全について、自己の考えを表現することが不十分である。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題解決に向けた一連の活動の振り返りと改善が不十分である。

2 学習計画

学期	月	単元名	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4 5 6 7 8 9	ガイダンス (現代社会と健康) ・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復 ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復 ・前期期末考査	・授業を受けるに当たってシラバスをもとに確認 ・グループワーク (課題探究型学習、ブレインストーミングなど) ・ロールプレイング ・ワークシート ・問題集 ・説明 ・発表 (現代社会と健康について理解を深めること。現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。)		18
後期	10 11 12 1 2 3	・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防 ・健康に関する意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり  (安全な社会生活) ・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・交通における安全 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法 ・救命救急講習 ・学年末考査 ・まとめ	・グループワーク (課題探究型学習、ブレインストーミングなど) ・ロールプレイング ・ワークシート ・問題集 ・説明 ・発表 (安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。)		17

令和8年度 「音楽Ⅰ」 年間学習指導計画

教科	芸術 音楽	学年・コース	第1学年	単位数	2
		教科書	MOUSA 1 (教育芸術)		
科目	音楽Ⅰ	副教材	なし		
教科の目標	芸術・音楽の幅広い活動をとおして、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を養う。				
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の資質・能力を養う。				

1 評価観点・学習目標

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を十分に身に付けている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことが十分にできる。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度が十分に養われている。
B	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付けている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度が養われている。
C	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術が不十分である。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことが不十分である。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度が不十分である。

2 学習計画

学期	月	学習内容	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4	○ 歌唱をとおして様々な楽曲に親しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旋律やリズムの特徴と表現の関わりについて考えながら、表現を工夫して歌う。</li> <li>・ リズムの読譜力を身に付けて、テキストと表現の関わりについて考えながら、強弱等の表現を工夫して演奏する。</li> <li>・ 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解し、音色や旋律、テキストの特徴と表現の関わりについて考えながら、よさや美しさを味わって聴く。</li> <li>・ リコーダーの基礎的な奏法を身につけ、アーティキュレーションの違いによる表現の違いを捉えながら、表現を工夫して演奏する。</li> </ul>	表現・歌唱	9
	5	・ 校歌		表現・器楽	10
	6	・ Caro mio ben			
	7	○ リズムアンサンブルに取り組む			
8	・ ボディパーカッション	鑑賞	6		
9	○ クラシック音楽の名曲を鑑賞する				
		・ トッカータとフーガ ニ短調	表現・器楽	12	
		・ 交響曲第9番ニ短調第4楽章			
		○ リコーダーの特徴を生かして演奏する	表現・器楽	10	
		・ アルトリコーダー			
後期	10	○ 箏の響きを生かして演奏する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 箏の基礎的な奏法を身につけ、音色や旋律、構成の特徴と表現の関わりについて考え、表現を工夫して演奏する。</li> <li>・ 旋律やリズムの特徴と表現の関わりについて考えながら、表現を工夫して歌う。</li> <li>・ 多くの曲に用いられているコード進行をもとに、音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解し、さまざまな主峰を活用しながらイメージを持って創作する。</li> <li>・ 伝統音楽や民族音楽を鑑賞し、それぞれの特徴を理解するとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考えながら、よさや美しさを味わって聴く。</li> </ul>	表現・器楽	10
	11	・ 文化箏		表現・歌唱	8
	12	○ 合唱をとおしてアンサンブルに取り組む			
	1	・ 証		表現・創作	10
	2	・ YELL			
3	○ 楽典を理解して、メロディーを考える	鑑賞	5		
	・ 楽典				
		・ 様々な音楽のメロディーを使用			
		○ 音楽をとおして世界を観る	鑑賞	5	
		・ 日本の伝統音楽			
		・ 諸民族の音楽			

令和8年度 「英語コミュニケーションⅠ」 年間学習指導計画

教科	外国語	学年・コース	第1学年	単位数	3
		教科書	Revised COMET English Communication I (数研出版)		
科目	英語コミュニケーションⅠ	副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・COMET I ベーシックノート (数研出版)</li> <li>・Willing NEW 基本の英語 3rd Edition (啓林館)</li> <li>・Listening Box PRE (啓林館)</li> <li>・英単語ターゲット1200 (旺文社)</li> </ul>		
教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動をとおして、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。				
科目の目標	<p>日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用しながら以下の5領域を実現させる。</p> <p><b>【聞くこと】</b> 話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようになる。</p> <p><b>【読むこと】</b> 使用される語句や文、情報量などにおいて、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようになる。</p> <p><b>【話すこと [やりとり]</b> 使用する語句や文、対話の展開などにおいて、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやり取りを続けることができるようになる。</p> <p><b>【話すこと [発表]</b> 使用する語句や文、事前の準備などにおいて、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようになる。</p> <p><b>【書くこと】</b> 使用する語句や文、事前の準備などにおいて、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようになる。</p>				

1 評価観点・学習目標

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
B	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの基礎を理解し、これらの知識を、4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などで活用できる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
C	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの基礎を理解し、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などで活用しようとしている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを理解しようしたり、これらを活用して表現したり伝え合おうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解しようとしている。 外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

2 学習計画 (いつ、何を学ぶか)

学期	月	単元	学習内容	備考	時数
前期	4	Willing	Lesson 1, 2	【be動詞】 (平叙文・疑問文)	50
	5	Lesson 1 From the Window of the Shinkansen	オーストラリア出身のALT, ジョーンズ先生が休暇中に新幹線に乗った経験を話す	【過去形】	
	7			一般動詞(平叙文・疑問文)	
	8	Willing	Lesson 3, 4	【進行形】	
	9	Lesson 2 Miniature Art: The World of Tanaka Tatsuya	ミニチュアアート作家, 田中達也さんの作品と仕事に対する姿勢を紹介		
		Willing	Lesson 5, 6	動詞の過去形(平叙文・疑問文)	
		Lesson 3 Onigiri Goes Overseas	日本のおにぎりの海外での人気について、ハルカが学校新聞に記事を書く	【助動詞】	
		Willing	Lesson 7, 8	疑問詞のある疑問文	
		Lesson 4 Pictograms	東京五輪をきっかけに世界でも一般的になったピクトグラムについて、リョウタがスピーチをする	【不定詞(名詞用法・形容詞用法・副詞用法[目的])】	
		Willing	Lesson 9, 10	There be～・現在進行形	
	Lesson 5	病院で子どもたちを癒すファシリテ	動名詞(主語・補語・目的語として)		

		Morita Yuko Hospital Facility Dog Handler	イドッグの日本初のハンドラー、森田さんへのインタビュー		
		Willing	Lesson 11、 12	未来形・助動詞 (can/may)	
		Reading 1 Let's Try Riddles!	英語のなぞなぞに挑戦	It is ~to do	
後期	10	Lesson 6	コンビニが商品を守るための工夫について、ハルカが研究発表を行う	【that-節】	55
	11	Convenience Stores: Keys to Their Success			
	12	Lesson 7	高校の養蜂部で活動するナナミの日記	【現在完了 (継続・経験・完了)】	
	1	High School Beekeepers			
	2	Willing	Lesson13、 14	助動詞 (must/should) ・受動態	
	3	Lesson 8 Smart Farming	スマート農業に関するウェブサイトの記事	【受け身】	
		Willing	Lesson 15、 16	現在完了形 (完了・結果・経験)	
		Lesson 9 Fashion Waste	衣料廃棄の問題について、ダイキが学校新聞に記事を書く	【比較】	
		Willing	Lesson 17、 18	現在完了形 (継続) ・現在完了進行形	
		Lesson 10 William and His Windmill	電気もない貧しいアフリカの農村で、独学で発電のための風車を作った少年ウィリアム・カムクワンバの実話	【関係代名詞 (who / which / that)】	
	Willing	Lesson 19、 20	比較 (原級・比較級)		
	Reading 2 Bailey The First Hospital Facility Dog in Japan	日本初のファシリティドッグ、ベイリーの物語	現在完了進行形・仮定法過去・関係副詞		

令和8年度 「家庭基礎」 年間学習指導計画

教科	家庭	学年・コース	第1学年	単位数	2
		教科書	Survive!! 高等学校 家庭基礎 (東京書籍)		
科目	家庭基礎	副教材	Survive!! 高等学校家庭基礎 準拠ノート (東京書籍)		
教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動をとおして、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指す。				
科目の目標	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境について、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付ける。 (2) 家庭や地域及び社会の充実向上を図ろうと複数の視点から情報を収集して考察し、根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けた実践的な態度を養う。				

1 評価観点・学習目標

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	Bに加えて、自己と地域、社会との繋がりを理解したり、身に付けた技能を応用したりすることができている。	Bに加えて、課題解決を目指して解決策を適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	Bに加えて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
B	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎知識を理解し、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしている。
C	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎知識とそれらに係る技能を十分に身に付けていない。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し解決策を構想しているが、論理的に表現できていない。	自分や家庭、地域の生活に対する関心が薄く、自分ごととして課題を捉えて取り組むことができていない。

2 学習計画

学期	月	学習内容	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4	8章 青年期・家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の一生を生涯発達の視点で捉え、生涯を見通して青年期をどのように生きるか考える。</li> <li>社会の変化に伴う家族と家庭生活と法律(民法)の変化を知る。</li> <li>基礎縫いとミシンの基礎的技術を習得する。</li> <li>衣服の表示の意味を理解し、適切な手入れと管理の仕方ができるようになるとともに、洗濯について科学的に理解する。</li> <li>資源としての衣服の循環を意識し持続可能な衣生活について考える。</li> <li>学習した単元に関わる生活課題または社会課題についてまとめ、考察または実践する。</li> <li>取組を振り返り、後期のホームプロジェクト活動に繋げる。</li> <li>契約について理解し、消費者トラブルに巻き込まれないための予防と対処方法を身に付ける。</li> <li>生涯を見通した経済計画を立てる重要性を理解し、家計収支の考え方や働き方、資産形成について知る。</li> <li>自分の消費行動が社会に与える影響について理解し、持続可能な社会のためにどう行動したらよいか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①単元テスト有</li> <li>②中間考査無</li> <li>③期末考査有</li> <li>④裁縫セット持参</li> <li>⑤不要なタオルを2枚持参すること。</li> </ul>	35
	5	2章 衣生活			
	6				
	7				
	8				
9	ホームプロジェクト				
		1章 消費生活・環境			

後期	10	3章 食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養素の種類や機能、主な食品の特徴について理解する。</li> <li>・各調理法の特徴を理解し、安全で衛生的、かつ、環境に配慮した効率的な調理技術を身に付ける。</li> <li>・持続可能な食生活、安全で健康な食生活について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①単元テスト有</li> <li>②中間考査無</li> <li>③期末考査有</li> <li>④エプロンとバンダナを準備しておくこと。</li> <li>⑤調理実習は3回程度を予定している。</li> </ul>	35
	11				
	12				
	1				
	2				
	3	4章 住生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で快適な住まいの条件について、科学的に理解する。</li> <li>・日本の住宅事情や課題を理解し、持続可能な住まい方の工夫について考える。</li> </ul>		
		5章 子どもの保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期が人の一生において、重要な時期であることを理解する。</li> <li>・社会全体で子育て支援をし、子育ての環境整備を行うことの重要性を理解する。</li> </ul>		
		6章 高齢期の生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生の一時期として高齢期を捉え、自分の将来像としての高齢期について考える。</li> <li>・高齢期の心身の特徴について理解する。</li> </ul>		
		7章 共生生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共生社会の重要性について理解する。</li> <li>・共生社会の実現のために、社会の一員として何ができるかを考え、工夫する。</li> </ul>		

令和8年度 「情報Ⅰ」 年間学習指導計画

教科	情報	学年・コース	第1学年	単位数	2
		教科書	改訂版 情報Ⅰ Next (数研出版)		
科目	情報Ⅰ	副教材	改訂版 情報Ⅰ Next サポートノート (数研出版)		
教科の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、問題の解決に情報と情報技術を適切かつ効果的に活用できる。				
科目の目標	情報と情報技術について基礎的な知識と技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。 問題の解決に向けて試行錯誤と改善を繰り返すことができる。 近年の情報モラルを踏まえ、主体的に情報社会に参画しようとしている。				

1 評価観点・学習目標

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用などについて理解し、技能を身に付けるとともに、情報に関するマナーや個人が果たすべき責任等について理解している。	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用している。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
B	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用などについて理解し、技能を身に付けている。	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切に活用している。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用しようとしている。
C	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用などについて理解している。	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用している。	問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用しようとしている。

2 学習計画

学期	月	学習内容	学習活動 学習のねらい	備考	時数
前期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス</li> <li>情報社会の問題解決</li> <li>情報とメディア</li> <li>情報社会における法とセキュリティ</li> <li>情報技術が社会に及ぼす影響</li> <li>コミュニケーションと情報デザイン</li> <li>情報のデジタル表現</li> <li>コミュニケーション手段の発展と特徴</li> <li>情報デザイン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種テスト</li> <li>ワークシート</li> <li>演習</li> <li>グループワーク</li> <li>実習</li> <li>振り返り</li> </ul>		35
	5				
	6				
	7				
	8				
後期	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータとプログラミング</li> <li>コンピュータのしくみ</li> <li>プログラミング</li> <li>モデル化とシミュレーション</li> <li>情報通信ネットワークとデータの活用</li> <li>ネットワークのしくみ</li> <li>データベース</li> <li>データの分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種テスト</li> <li>ワークシート</li> <li>演習</li> <li>グループワーク</li> <li>実習</li> <li>振り返り</li> </ul>		35
	11				
	12				
	1				
	2				